

01 みんな一緒に踊ろう（障がい者）

5 （ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、栗原類がお届けします。今日のタイトルは「みんな一緒に踊ろう」です。

10 年齢や経験・障がいのあるなしに関わらず、誰もが楽しめる「コミュニケーションダンス」。踊りが持つ力を社会の中で生かす活動としてイギリスで発展し、日本でも徐々に広がってきました。

福岡市を拠点に活動するダンスアーティストのマニシアさんは、国内外でワークショップを開催しています。

15 【マニシアさん役】障がいのある方を対象にした活動を始めたのは、以前参加したワークショップで、車いすの男性と出会ったことがきっかけです。音楽に合わせて指先だけで踊る姿を見て、感性の素晴らしさに衝撃を受けました。

20 もっと彼と踊ってみたいくなり、その後、一緒にダンス作品をつくりました。動きや言葉が不自由でも、観察する力や、表現するパワーがすごいんですよ。新鮮な刺激があつて、とっても楽しかったです。

（ナレーター）2024年6月、福岡市で開かれたマニシア

25 さんのワークショップには、知的障がいや身体障がいのある子どもたちと家族が参加していました。

30 生演奏が始まると、ステージで伸び伸び体を動かす子どもたち。決まった振り付けはなく、お互いにコミュニケーションを取りながら、イメージを表現していきます。重度の障がいがあり、指や目の動きだけでダンスをする子、車いすの兄弟を囲み、笑顔で踊る家族の姿もありました。

35 会場は温かな一体感に包まれ、ダンスが終わると客席から大きな拍手が沸き起こりました。

40 【マニシアさん役】参加した子どもたちは、「ここが好き」「また来たい」と言い、何度も来てくれる子もいます。重度障がい児のお母さんは、家族みんなで外出できたことをとても喜んでいました。

45 この活動が始めた頃、周囲の人から「いいことをやってみすね」「すごいですね」と言われ、壁をつくって見られているように感じたことがあります。障がいのある人はかわいそう、と思われたのかもしれない。

50 障がいの有無に関わらずみんな素晴らしいし、私自身、いろんな個性の人と触れ合うことがおもしろくて、活動を続けています。

55 (ナレーター) ダンスを通して、ありのままの自分を表現するサポートをしているマニシアさん。障がいを越えて、人と

人^{ひと}が笑^え顔^{がお}でつな^ながる世^せ界^{かい}を^を広^{ひろ}げて^ていま^ます。

(本文934字)